

2013.5.24

寄付金目標の8割に

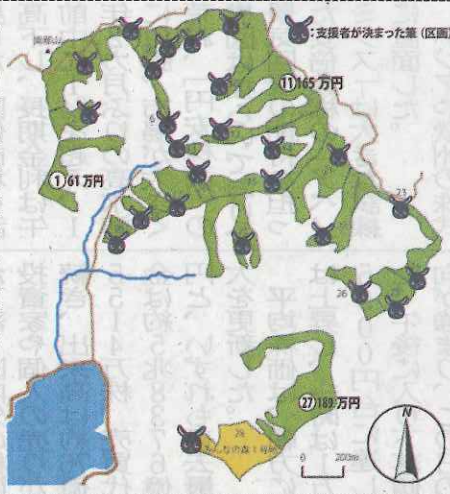
奄美の森 キャンペーン 6月末達成へあと一歩

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会(東京都)は23日までに、奄美大島の森林環境保護を目的に寄付を募っている瀬戸内町の民有林について、17日現在の出資状況をまとめた。これまでの寄付総額は1588万円と目標金額2000万円の約8割に達した。同協会は「目標達成まであと一歩。6月末の期限まで企業や個人などなるべく多くの人に協力してほしい」としている。

同協会は国の特別天然記念物アマミノクロウサギなど希少な動植物が生息する同島で、

法的保護の網にかからない民有地を乱開発から守るつと、同町で98万2854平方メートルの土地を取得。全国からの寄付を募るキャンペーンを3月に開始した。17日現在、28区画に分けた対象地のうち、日本航空(JAL)グループなど企業4社と10個人から24区画1455万円の支援が集まった。1口千円から寄付を募る1区画6万4080平方メートルの「みんなの森」には133万円が集まり、目標の130万円を上回った。残りの区画は▽2万9755平方メートル(61万

17日現在の出資状況(日本ナショナル・トラスト協会のホームページより)



円)▽8万1746平方メートル(165万円)▽9万3786平方メートル(189万円)の3カ所で、出資すると支援した区画に任意の名前を付けられる。また、2区画目の「みんなの森」の設置に向け1口千円の寄付の募集も続けるといふ。

キャンペーン期間は6月末まで。土地は森のまま保存し、野生生物などの調査や環境教育、エコツアーの場として活用する。秋には

現地に看板を設置する予定。

日本ナショナル・トラスト協会

同協会の関健志事務局長は「JALの協力で奄美に旅をした人にも賛同者が増えた。多くの人に奄美の自然に関心を持ってもらい、認知度が上がるきっかけにしたい。3年後の世界自然遺産登録に向け、対象地の活用などについて息の長い検討を続けたい」と話した。